

日刊労働千葉

80.9.4
No. 525

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九(公衆)三三三・二七〇七

取知らな土屋粹の「三里塚・ジェット特別決議」を弾劾する

路線的・組織的破綻にあえぎ 新たなペテンと破壊策す「本部」反動分子

第三六回名古屋大会は、「本部」反動分子の動労私物化・路線的組織的破綻にファシスト的ひきまわしの実態をありありとさらけ出した。われわれは今こそ重大決意を固め「本部」反動分子の掃蕩、動労大改革を勝ちとらねばならない。

△破綻と私物化の実態▽は、

①反合闘争の完全放棄——「安定宣言」を更に進めて遂に「大胆な妥協(＝大胆な裏切り)」路線の名により、「55・10の売り渡し」「35万人体制率先協力」「要員はき出し」運用合理化推進」をはつきりと方針化した事。

②財政喰いつぶし・組織私物化——「水本」「千葉破壊」「目黒」を口実に前代未聞の四億六千万円の大赤字。しかも機関の承認も経ず、一片の「八鉄メモ」による口封じ策動。

③水本・謀略運動との組織的一体化を更に強めた事。

④動労千葉破壊＝千葉地本「再建」策動の破産とゆきづまり——規約規則無視で「全国大会まであわせ」のためにペテン的「業務再開通告」への逃げこみ。

そして、その路線的破綻となりふりかまわぬ居直りの最大の表現こそ、次の二点、

⑤反労働者の・愛国の党＝日本共産党との反動的野合の道へ遂にころがり込んだこと。

⑥土屋粹を使って「三里塚・ジェット特別決議」なるものをつぎ出したこと。

「本部」反動分子と土屋こそ、一貫した三里塚・ジェット闘争の妨害者!!

「厚顔無恥」「盗人猛々しい」という言葉は、実にこの「本部」反動分子と土屋粹のためにつけられた言葉である。

そもそも「本部」反動分子は、三里塚・ジェット闘争にいかなる態度をとってきたのか。その一貫した敵対と裏切りの歴史は、誰の目にも明々白々の事実である。

彼らは当初より「ハミダシ運動」と悪罵を投げつけるのみならず、「三里塚・ジェット闘争を動労の全国的組織的闘いとして闘う」という方針を

決定した七七年動労水上大会以降も、これを公然と踏みじり、敵対をくり返した。そしてあの七八年三月暫定貨車輸送開始前に、動労千葉が苦闘の上になりひらいてきた闘いに真向から敵対し全国から要員と機関車を千葉に送りこむスト破り行為を行い、さらに「三・一闘争終止符」論をもつて「これは中央の指令である」と強弁して闘いの反動的な幕引きを画策した「本部」反動分子たち。あらゆる妨害をけつてハンドルの武器に、あくまで闘い続ける動労千葉を言語同断のファシスト的暴力で排除し、「一線を画す」なる三里塚敵対路線を強行した七八年津山大会。その後の三里塚・ジェットを闘うが故の理不尽な統制処分乱発。しかも七九年一〇月二二日、一月一日の増送阻止の二波にわたるストライキに対し、増送用機関車を送り込み、その上「スト反対」を叫んで職場を襲撃した「本部」反動分子。

「日共との野合」「三里塚特別決議」の唯一の狙いは動労千葉破壊!

「三里塚は反人民的」「スパイの運動」と悪罵を投げつけ「戸村が死んでおめでと。次はお前だ」と黒ワク封筒の脅迫状を送りつけ、昼も夜も反対同盟員宅に脅迫電話をかけている反動分子どもが、いったいいかなる立場で「三里塚・ジェットを闘う」といえるのか!

しかも今日、彼らがあの一貫した三里塚敵対・国鉄労働者の階級的闘いを否定している党派たる日共と公然たる野合を組んだことに明白なように、このペテン的「決議」こそ、五六・三貨車輸送期限切れにむけた動労千葉と反対同盟の闘いへの新たな解体宣言である。当局・公団と手を組んで「燃料安定輸送のための、動労千葉破壊のための」「ハイエナの如き邪悪な意図の反動的連合以外の何ものでもない。

全ての組合員の皆さん。裏切り者土屋粹と革マルスパイ分子嶋田らを先頭とする「本部」反動分子の醜態の上ない新たな破壊攻撃を粉碎し、55・10粉碎、9・15三里塚総決起を突破口に今秋闘争の強固な陣型をしっかりと打ちかためていこう。